

－ OCT Angiographyの時代がやってきた－

明けましておめでとうございます。

大塚眼科院内誌「ほっとeye通信」は、今回で15号となります。平成23年5月に第1号が発行され、今年で6年目を迎えます。毎年、年始にあたりこの1年の目標をかかげてきました。昨年は黄斑浮腫（糖尿病や網膜静脈閉塞、加齢黄斑変性などで生じる）の治療に取り組みました。すべてを完全に治すにはまだまだ時間がかかると思いますが、レーザー治療、抗VEGF薬やステロイドの硝子体注射、またステロイドのテノン嚢下注射、それに硝子体手術などを組み合わせることにより、かなりの成果を上げることができました。

今年の目標は、昨年当院に本邦第1号として導入したOCT Angiography (OCTA) を実臨床の場で実践的に活用することです。昨年末に開催された「日本糖尿病眼学会」と「日本網膜硝子体学会」に参加してきましたが、話題の中心はやはりOCTAでした。

OCTAは造影剤を使用せずに網脈絡膜の循環（血管）を抽出することができます。OCTAの原理は、動きのあるもの（血流内の赤血球）のみを抽出して血管構造だけを再構築するもので、造影剤を静注しないで非侵襲的に何度でも撮れます。多少の固視微動も補正され、わずか3秒で撮影、解析が終了します。OCTAは、網膜表層のみなら

ず、網膜深層から脈絡膜まで3次元で血管構造が観察できます。

OCTAを導入したその日にはじめて撮った入院患者様のOCTA画像には今まで経験したことのない感動を覚えました。黄斑部の網膜毛細血管の無灌流域（無血管野）が蛍光眼底造影よりもOCTAの方がより鮮明にリアルに描出されていたからです（写真A）。

黄斑は物を見る最も大切な部分です。この黄斑部において網膜毛細血管の閉塞（虚血）や異常血管（新生血管や血管瘤）が詳細に観察評価できるということは、その治療においてもとても有用なことです。

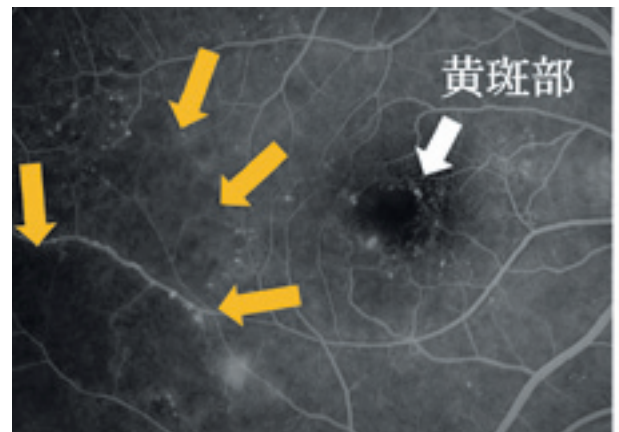
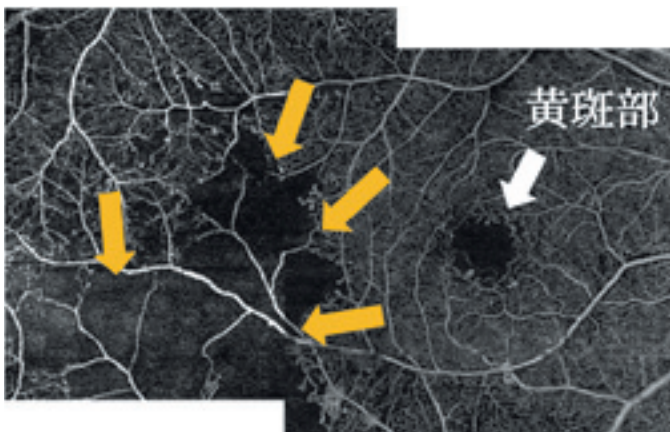
今年1年間は重点的にこのOCT Angiographyを活用し、視力低下となった病態を解明し、治療に繋げていきたいと考えています。

今年もよろしくお願い申し上げます。

院長 大塚慎一 記



院長 大塚 慎一



写真A 同一症例のOCTA(左)とフルオレセイン蛍光眼底造影(右)
※矢印の黒いところは血流のない無灌流域(無血管野)です。

患者様に負担のない血管造影検査 OCT Angiographyを導入しました

OCTA (OCT Angiography)

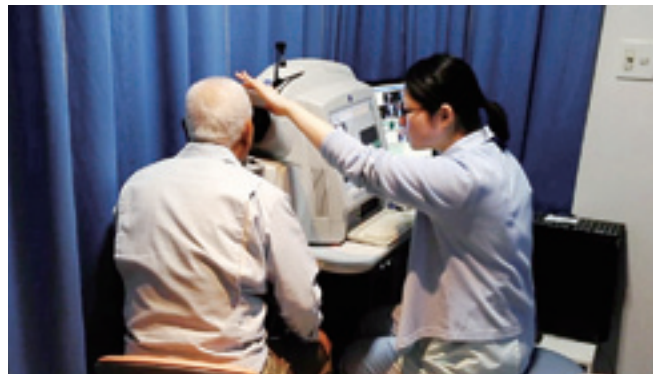
～簡単！無痛！毎回できる血管造影検査！～

従来の造影剤を使用した蛍光眼底造影検査（FA）と、なにが違うのでしょうか？下の画像で一目瞭然だと思えます。FAは点滴ルートを確認して、静注された造影剤が眼内に入ると同時にフラッシュ光で撮影して網脈絡膜血管を造影しますので、患者様の負担は大きいといえます。OCTAは院長のコメントにあるように造影剤を使わず網

脈絡膜血管の造影が出来ます。しかもFAでは困難な血管網の層別解析が可能で、特に毛細血管はFAより鮮明に描出されます。ただし、FAでしか判定できない情報もありますので、全てがOCTAになることはありませんが、外来で！、3秒で！、毎回できる！、というメリットは大きく、我々検査スタッフも診断と経過観察に役立つ画像の撮影ができるよう、院長とともに勉強して行きたいと思えます。（後藤 記）



蛍光眼底造影（FA=Fluorescein Angiography）



OCTA（OCT Angiography）

日本視機能看護学会で発表しました

平成27年10月3日（土）～4日（日）、熊本県で開催された日本視機能看護学会に院長を含む10名で参加しました。当院の視能訓練士 後藤がモーニングセミナーの講演を行い、当院の看護師 井上、赤峰、外山の3名が発表しました。

〈本人のコメント〉後藤

『問診から考えながら行う眼科検査』というタイトルで50分の講演を行いました。眼科は検査項目・検査機器が多く、患者様の『見にくい』という訴えに対して、問診から必要な検査を選択して、一般検査で数値化し、特殊検査で画像化します。他の検査結果と合わせて考えながら検査を施行することで、医師の診断と治療に役立つデータを出すことができます。今回のスライド作成を通じて、眼科における検査の重要性を再認識しました。

〈本人のコメント〉赤峰

眼科での介護申請はあまり例がなく、まだ取り組みが少ないのが現状です。視覚障害のある患者さんが介護調査の際に不自由さを伝えられないという相談がきっかけとなり、眼科看護師として工夫しながら介護申請に関わりましたので、全国の眼科看護にかかわる方が集まる学会でその取り組みについて発表しました。

写真や患者さんの見え方のイメージ画像を使いながら発表しましたが、伝えることの難しさを痛感しました。

この経験を活かし、今後も積極的に介護申請に取り組んでいきたいと思えます。



〈本人のコメント〉井上

今回、眼瞼下垂症の患者さんに手術前後でアンケート調査を行い、症状の改善度を発表させていただきました。

発表するにあたり学んだことで患者さんの訴えがより理解でき、説明をするときの自信にもなり、とても良い経験となりました。

今後も患者さんの為になることを学んでいき、診療に繋げていきたいと思えます。

〈本人のコメント〉外山

今回初めて学会発表をさせていただきました。眼科看護師が全国より集まり、多くの方の前での発表でとても緊張しましたが良い経験となりました。

発表内容は、当院に導入しているオプトスという検査機器を使つての飛蚊症（目の前の飛びもの）と網膜裂孔・網膜剥離（眼底の病気）についてでした。

今回の発表を通じて病気の理解が深まり、発表の難しさを学びました。周囲の方の助けや助言がなければ、発表できなかったと思えます。一緒に手伝って頂いた方や発表の機会を与えてくれた院長先生に感謝いたします。

日本糖尿病眼学会で発表しました

平成27年11月27日(金)～28日(土)、名古屋で開催された日本糖尿病眼学会の
コメディカルセッションにおいて、当院の視能訓練士 後藤が座長を務め、当院の管
理栄養士 後藤が講演を行いました。



〈本人のコメント〉後藤

11月28日(土) 糖尿病眼学会ではじめて発表をさせて頂きました。発表するにあたり糖尿病網膜症を栄養に関連付けてスライドを作ることになり、何から手を付けてよいか分からず難しかったです。先輩方のアドバイスや工夫により出来上がったときは嬉しかったです。

発表する立場を体験し、もっと多くのことを知っておかなければいけないと痛感しました。

この経験を今後の診療に活かしていきたいと思います。

〈本人のコメント〉後藤

全身疾患としての糖尿病は合併症も様々で、多くのスタッフのサポートが必要です。患者と接する時間の長いコメディカルが正しい知識を持ち、糖尿病網膜症患者へ接することは大切です。そこで今回は、名古屋市立大学眼科准教授の安川力先生と協力してこのセッションを企画し座長も務めさせて頂きました。医師、看護師、視能訓練士、管理栄養士がそれぞれの立場から糖尿病網膜症について講演し、最後の総合討論でも活発な意見交換が行われ、コメディカルのレベルアップに繋がるセッションになりました。

平成27年 当院の学会参加一覧〈9月～12月末〉

9/5	大分眼科集談会(大分)	9名	10/23～25	日本臨床眼科学会(名古屋)	5名
9/6	眼科スタッフセミナー(大阪)	1名	11/27～28	日本糖尿病眼学会(名古屋)	5名
9/11～13	日本緑内障学会(名古屋)	2名	12/4～6	日本網膜硝子体学会(東京)	4名
10/3～4	日本視機能看護学会(熊本)	10名	12/13	大分眼科集談会(大分)	1名

各専門医日程

当院では全国より各分野の専門の先生を招いて診察や手術を行っています。専門医診察・手術は早い時期で予約が埋まってきますので、診察や手術をご希望の方は、スタッフまでご連絡ください。

1月	2月		3月	4月
16日(土)	5日(金)	16日(火)	4日(金)	2日(土)
硝子体手術	緑内障手術	眼瞼手術	硝子体手術	眼瞼手術
東京女子医科大学 教授 飯田先生	東京大学 教授 相原先生	(横浜) 岡田眼科 副院長 宮田先生	東京女子医科大学 教授 飯田先生	京都府立医科大学 渡辺先生
23日(土)	6日(土)	19日(金)	11日(金)	16日(土)
涙道内視鏡手術	眼瞼手術	緑内障専門外来	感染症外来	黄斑外来
(岡山) すぎもと眼科 院長 杉本先生	京都府立医科大学 渡辺先生	愛媛大学医学部 眼科准教授 溝上先生	JCHO星ヶ丘医療センター 部長 佐々木先生	日本大学 准教授 森先生
	13日(土)	20日(土)		23日(土)
	白内障手術	硝子体手術		硝子体手術
	(東京) 井上眼科病院 副院長 徳田先生	大阪労災病院 副院長 恵美先生		大阪労災病院 副院長 恵美先生

専門医紹介 15



愛媛大学医学部 眼科准教授
溝上先生

今回ご紹介する先生は、愛媛大学医学部 眼科 准教授の溝上先生です。専門分野は緑内障です。学会でも聴講する参加者の立場に合わせ、分かりやすく講演されるため、溝上先生のセッションは常に満席で立ち見がでるほどです。またOCT(光干渉断層計)を用いた、新しい緑内障診断テクニックにおいて、日本の緑内障分野をリードされています。当院の院内講演でも惜しみなくテクニックを披露して頂き、当院の検査と診断がレベルアップしました。

平成27年度大分県立盲学校 学校公開に参加して

受付事務 米田

10月23日、大分県立盲学校で毎年開催される学校公開へスタッフ4名にて参加してきました。

アイパッド等を利用し、1人1人に応じた学習方法を先生方が熱心に指導し真剣に取り組む生徒さん達の姿に感銘を受けました。

県内唯一の盲学校ですがまだまだ知られておらず、1人でも多く視覚障害のある方が新たな一歩を踏み出せる様に伝えていく事が私たち眼科スタッフの役目ではないかと思いました。



「アデノウイルス試験薬の臨床試験」 期間延長のお知らせ

流行性角結膜炎などのアデノウイルス結膜炎は、感染力が強く集団感染が問題となります。

当院は愛媛大学眼科学教室より全国8か所の臨床試験実施施設に選ばれ、従来よりも簡便で検出感度が高いと予想されるアデノウイルス新規試験薬を用いた検査を無料で行っております。

前号にて、11月30日までのご案内でしたが、当院での治験は特に陽性率が高かったため臨床試験の期間が2016年3月31日まで延長されました。

診療時間の案内

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ～ 12:30	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野	大塚 中野
午後 14:00 ～ 18:00	中野	中野	中野 野田(予約制)	午後 休診	中野	午後 休診
手術日 (午後)	白内障	白内障	白内障	—	翼状片 眼瞼下垂 内反症	—

お知らせ

3/10(木)～26(土) 中野先生不在です。
院長診察のみにになります。

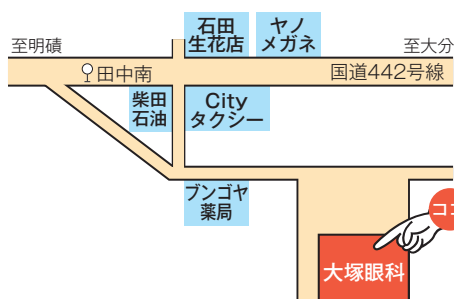
3/14(月)、15(火)、16(水)、
22(火)、23(水)は午後休診です。

※専門医による硝子体手術・緑内障手術・眼瞼手術・涙道手術は随時行っています。
※受付時間は午前7:30～午後5:00までです。
※コンタクトレンズの作製は、予約制となっております。事前に電話にて御予約をお願い致します。
※中野先生の診療は午前10:00からとなります。

ホームページ紹介



大塚眼科のホームページには院長の挨拶をはじめ、診療時間の案内・手術案内や、交通アクセスなどが掲載されています。



広報部編集委員

井上
氏川
野崎
小野
本幡

大分市 大塚眼科

検索

インターネットにて検索してみてください

ケータイはこちら

大塚眼科モバイルサイト

